



第26号

発行所 大阪市史跡 龍溪禪師墓所
 靈龜山 九島 禪院
 〒550 大阪市西区本田3丁目4-18
 ☎06-583-2725
 発行人 住職 奥田 啓知 (智證)

大統領のウソ

ウソをつく必要のない生活を!

クリントン米大統領の不倫・偽証強要疑惑が世界中の耳目を集めています。

クリントン大統領と不倫関係にあったという元ホワイトハウス職員、モニカ・ルインスキーさん(二四)の告白テープから大統領の州知事時代のセクハラ裁判で証言に立った彼女に、大統領側近がウソの証言をするように依頼した疑惑も明らかとなつて、刑事事件へと発展する可能性も浮上し、今回の疑惑がにわかには政権を揺るがす事態に至っています。

今回のクリントン大統領による不倫もみ消し疑惑の核心は、せんじ詰めれば、大統領自身がウソをつかされたのかどうか、さらにはウソをついたのかどうかにあります。

仏教では戒のひとつに「不妄語戒(ふもうごかい)」があります。ウソをついてはいけなと戒められています。しかし、ウソをつくな、真実を語れ、と言われても、そう単純にはわりきれぬものではありません。

なぜなら、真実ほど、人を傷つけるものはありません。音痴の人、短足の人、怠け者、それぞれ人はみんなそれぞれの真実を気にしています。それを他人に言われたとき、どれだけその人が傷ついているか、少し考えれば分かります。がんに罹った人に、あなたはがんですよと真実を告げることは、その人を傷つけることになります。

では、真実をやめて、ウソをつけばよいのかといえ、話はそう単純ではありません。ウソは、それがウソと分かったとき真実よりもっと傷つけます。どうすればよいのでしょうかそれは、ウソをつかないという努力をするより、ウソをつく必要をなくすようにすべきなのです。

たとえば、浮気や不倫をする、それを隠すためにウソをつかざるをえなくしておいて、ウソをつくまいとしても不可能で、よからぬ、浮気や不倫をしないようにしなければなりません。



26日、ヒラリー夫人の見守るなか、ホワイトハウスで会見、疑惑を否定するクリントン大統領(ロイター)

それが、「不妄語戒」の意味ではなく、ウソをつかないでもいように自分を律せよ、ということなのです。

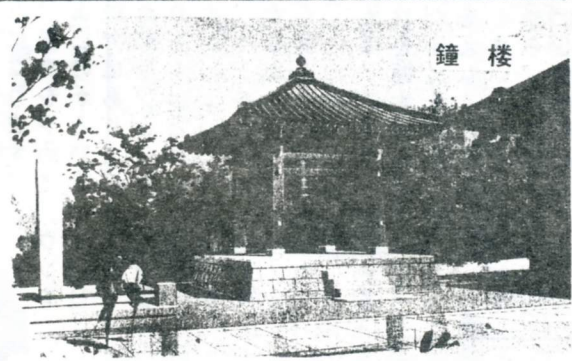
しかし、聖人君主でもないわたしたちは、どうしてもウソをつかざるをえないときがあります。しかし、人をだましても自分自身だけにはウソはつけなことも忘れてはなりません。クリントン米大統領の不倫・偽証強要疑惑も、ヒラリー夫人の活躍により、解決するかも知れませんが、一連の報道が事実ならば、大統領自身の生活態度——ウソをつかざるを得ないような——をあらためないかぎり米国大統領史上に汚点を残すことになってしまいうでしょう。

大阪にオリンピックを！ 九条に中華街を！ 二十一世紀まであと二年！

常休寺復興す

震災で被災、全壊した常休寺（伊丹市中野）の復興再建工事がこの度完成し、今春四月五日に落慶法要が挙行されることになりました。工事は龍燈会館を建築した中山工務店がすべて担当されました。常休寺は小浜奉行をされた伊東祐之公が創建し、赤穂浪士の浅野家の分家で、伊丹の中野新田を開いた浅野孫左衛門により帰依されて以来栄えた伊丹の名刹です。当院先代弘志和尚と先々代

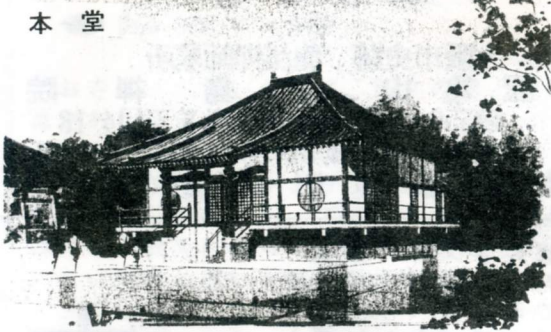
榮忠和尚も住職されました。一昨年亡くなった普喜發子坊守は、弘志和尚の姉でした。当院の喜捨で復旧なった山門を、このほか感謝されていたましたが、震災以前よりひとまわりも大きく再建された本堂や鐘楼、それに境内墓地に立つ身の丈七メートルの大観音立像の威容さに涙を流して喜ばれたことだと残念に思います。落慶法要の当日、坊守さんの三回忌法要も先立って厳修されます。



鐘 楼

○古黄檗（中国） 拝塔

三月八日（日）より中国福建省にある古黄檗萬福寺で日本の華僑の方々が寄進した法堂の落慶法要と日本の黄檗宗が寄進する禅堂の上棟法要が行なわれます。これを機に第七次訪中団が派遣され、小柄も参加してきます。三泊四日の日程で随喜する予定です。報告は彼岸法要でしたいと考えています。尚、今秋の十一月十七日頃より、日中合同で落慶法要が予定されており、檀信徒一般よりの参加者も大募集することです。



本 堂

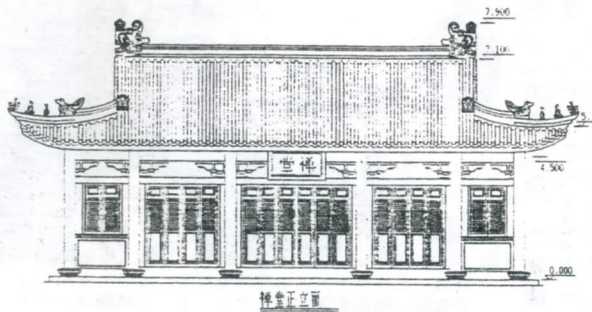


○智玄さん住職に

当院の手伝いをしていただいている山下智玄師が、今春より師の郷里の水上郡山南町の臨濟宗妙心寺派の古刹「長慶院」の後住に入山されました。今後とも当院とは親交を続けますが、なにしろ自坊の

法務もあり、特にお盆の棚経には、例年どおりの日程で担できず、本年よりお盆の棚経の大幅な変更をしないでほしいと願います。

今年の盆棚経の日程が大幅に変わります。あしからず、ご了承下さい。



古黄檗正立圖

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建三百三十年です！

○応援してあげて

当院本堂座敷の襖絵が画集に載りました。作者の中国画家の劉新華先生が、京都芸科大学を卒業され、本格的に芸術活動に乗り出されま

大阪にオリンピックを！

九条に中華街を！

二十一世紀まであと二年！

異国の長い仮設暮らしに負けず

初の個人画集出版

日本に留学中、神戸市内で被災し、大阪の仮設住宅で暮らす中国人画家が二月、初めての個人画集を出版する。掲載作品には、仮設住宅で描いたものも含まれる。昨年末、尼崎市内の県営住宅に当選。今春、留学先の大学院を修了、新居への引っ越しは八月と、喜びが続く。異国で、しかも仮設住宅生活が長かっただけに「今年こそ、よいことがいっぱいありそう」と笑顔を見せている。

天津市出身の桂上登さん(画名)で、大阪市淀川区の淀川十八条仮設住宅で暮らす。中国の花鳥画が専門だが、天津大学院芸術研究所を卒業後、日本画の表現方法を学ぼうと四年前、妻とともに来日。京都市立芸術大学大学院に留学した。神戸市東灘区のアパートで被災

中国人画家 桂上登さん

し、五月から大阪で仮設生活をはじめた。桂さんは、六歳から始めていた絵を、十九歳のころから本格的に志すようになった。文化大革命で、家族五人とともに下放され、華北で七年間、苦しい生活を強いられたのがきっかけになった。食べ物もなく、綿の実などを食べた。その日

公営住宅当選、大学院修了…



々の情感を草花などに託して描くようになったとい

喜び次々と

大学院の修了と念願の転居という喜びが、一緒に訪れる。修了後も好きな日本にとどまり「より本格的に絵画活動に取り組み、画内の友好のかけ橋になりたい」と張り切っている。画集は日貿出版社刊。三千八百円。問い合わせは発行元のアムディオ06・401・2681。

著者直筆の署名落鑑入りの限定本 (定価3800円)

ご購入して下さい！ お寺までお電話を！

す。氏の画風は現代の日本画にはない伝統中国画の有する精緻密、緊密でなおかつ調和のとれた叙情性をあわせもち独特の世界をつくりだしています。特に花鳥画が専門で、日本画界で注目されています。

左は神戸新聞の掲載記事(一月二十一日付)ですが、マスキの取材が殺到しているとのことで、今後の活躍が期待されています。「桂上登花鳥画の世界」と題した画集は日貿出版で刊行さ

れ各書店で発売されますが、当院の襖絵もカラー写真で大きく紹介されています。先生直筆の署名落鑑の入った限定本を是非に購入して下さい。三千八百円です。当院までご連絡をお願いします。

えさをついばむ様子として、タッチで描いている。表現した作品など、百八点を収めた。半分以上の作品は日本で手かけた。仮設住宅の自宅し。「これからは、いいことを迎えたい」との願いを込めて名づけた。同仮設住宅は湿度が高く、絵の用紙が波打ってしまっほど。体調も崩して腰が痛み、手の関節がはれてしまったという。大学院の修了と念願の転居という喜びが、一緒に訪れる。修了後も好きな日本にとどまり「より本格的に絵画活動に取り組み、画内の友好のかけ橋になりたい」と張り切っている。画集は日貿出版社刊。三千八百円。問い合わせは発行元のアムディオ06・401・2681。

奉納抄

編集後記

南無観世音菩薩のぼり奉納

(平成十年一月)

田村治夫・岡田和子・浅香弘一・藤川忠計・多賀栄美子・松田勝・三好清隆一柳胤雄・三阪忠秋・南はつ代・平松沙記・良麻・多賀澄子・二見一郎・中田みつ・山口時夫・波川明美・松永フユ・鈴木ヤナ子・竹元朗・水野栄子・岩本嘉一郎(一年間境内で掲揚します)

▼北大阪地区の黄檗宗寺院二十三ヶ寺が輪番で毎年、五月三日に宗祖隠元禪師の宗祖忌(ご命日法要)を祥月より一月遅れで行っています。▼当日は、会場寺院に二十三ヶ寺の住職が一堂に会し厳肅に執り行われます▼本年は輪番の年にあたり、当院で行われ、小柄が導師を勤めます。約二十年前、先代和尚が「こんど廻ってくる時は、お前がやるんだよなあ」と言っ

ておられた言葉を思い出しました。▼香語といって法要開始時に唱える漢詩ができましたので、ご披露します。陰陽古寺萬松下 法闍長明一焰灯 一日入山人不會 無人無我渡來僧 ▼宗祖の徳を讀えた漢詩ですが、小柄のような愚僧凡僧にはとても及ばないものの、いつの日か彼の地に赴くときにはたとえ少しでも宗祖の境涯に近づきたいと願心をもって精進したい。漢詩の会を毎月第四火曜日(八月・十二月は休み)をしています。参加しませんか。

●除夜の鐘

お寺にいらぬものは、前住の^{かか}嫡と^{つりがね}梵鐘という俗諺があります。どちらも、住職としてはやっかいなもの代名詞という意味です。

当院には釣鐘がありません。戦災で焼失したか供出させられたと思ってましたが、先日叔母さんに伺うと、戦災にあった山門の楼閣には釣鐘はなくお盆に墓地に置いた真鍮の灯籠をしまっていたとのことでした。

本田地誌(昭和8年発行 高原護郎著)のなかの郷土の伝説の一節に、弘法大師が旅僧となって現れ一夜の宿を乞うた民家での奇跡はなしの中に「九り島院で撞く除夜の鐘は、寒風に誘われて陰にこもり徒に寒さをそそるばかり・・・」との記述があるところから、焼失した山門の以前、明治18年に洪水で倒壊した山門には釣鐘があったと推察されます。

昨今は音の公害だと思われ、鐘を招来し鐘を撞くのを避けるか、検討して、い

に一度ぐらゝ、行く年の煩悩を洗い、来る年の光明し鐘を撞ければと、釣鐘を招来し鐘を撞くのを避けるか、検討して、い

紅白歌合戦の後、娘にせかれ、新年を迎えるカウントダウンに大阪ドームへ行った帰り道、竹林寺の門前を通りかかりました。ちょうど除夜の鐘を撞く為か鐘楼門に参拝の人影が見えましたが、うしろの寺にも釣鐘がほしいなあと、思いつつ、一句でなきました。「山門に鐘なき寺の坊主行く」



山門会(春彼岸法要)

3月23日(月)

午後1時半より

ご先祖供養です。宗旨に関係はありません。ご回向のお申し込みをお願いします

法 話 ・ 住 職

ご案内

二十一世紀にはいる平成十二年は当院創建三百三十年です!